

研究区分：大学ブランディング化に関する研究
本学におけるスポーツファーストレスポnderの育成
 氏 名 坂梨 秀地【所属】保健医療学部 救急救命学科

はじめに

日本 AED 財団の提言「スポーツ現場における心臓突然死をゼロに」では、スポーツ現場での心臓突然死のリスクは運動していない時に比べ 17 倍に高まり、1 分遅れる毎に 1 割の救命率が低下し、10 分を過ぎると救命は困難と言われている。また、予防するために 2 分以内に AED が届けられる場所、スタッフ関係者への救命講習等の教育が必要とされている。学校内においての突然死では運動・スポーツ中が 8 割を占めており、グラウンド、体育館での発生が多いと報告されている。

1. 背景

スポーツに力を入れている本学では、医療を学びながらスポーツをするスポーツメディカリストを育成している。その中で、スポーツ中の怪我などに対応するためトレーナ部が存在しているが、スポーツを行っている学生自身でスポーツ中に起きる怪我や急病に対して対応できるための知識・技術を身につけるための教育が必要ではないかと考える。

【スポーツファーストレスポnderとは】

スポーツファーストレスポnderとは、スポーツ中に起きたケガや急病に居合わせ処置をする人を指し、運動部に所属する人、トレーナ部や、スポーツイベント救護を行う人が誰でもスポーツファーストレスポnderになり得る可能性が高い

2. 目的

スポーツファーストレスポnderに必要な実技・知識を抽出し、スポーツ現場におけるスポーツファーストレスポnderの有効性について検討する。

3. 方法

育成プログラムの検討

→他大学や競技団体が行っている応急手当講習プログラムを調査し、本学に適したプログラムの作成を検討する。

4. 結果・考察

国士舘大学では「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版 NCAA）創設事業（大学スポーツ振興の推進）」として大学スポーツの安全・安心の確立に資するプラットフォーム構築事業で図 1 のようなスポーツ中の怪我などの対応するための教育プログラムを構築している。

時 間	（分）	項 目	内 容
13:00	13:05	導入	全体、その後退に別れる
13:05	13:20	プレテスト	
13:20	13:50	創傷/止血	流水にて洗う、ガーゼ/ネット包等で被覆 ※直接圧迫止血
13:50	14:30	捻挫/骨折対応	RICE処置、三角巾での固定のつり
14:30	14:40	状況評価	二次災害の回避、感染防御、搬行資器材、応援要請、傷病者数など
14:40	14:50	休 憩	
14:50	15:00	初期評価	（頭部保持、ニュートラルポジション）、気道、呼吸、循環の簡易的評価
15:00	15:10	全身観察	主訴に対しての観察
15:10	15:50	心肺蘇生	胸骨圧迫、AED ※人工呼吸（MnM、ポケマ）、小児
15:50	16:10	熱中症	補水、冷却、体温管理（腋窩、耳式体温測定）、WBGT測定
16:10	16:20	休 憩	
16:20	16:50	搬送法	頭部保持、ニュートラルポジション、ローロール、ログリフト、フラットリフト
16:50	17:20	搬送法	徒手搬送、担架搬送、のせ方、おかし方、保温
17:20	17:40	体位管理	仰臥位、側臥位、腹臥位、座位、起立位、回復体位、ショック体位
17:40	17:50	質疑応答	心的ストレスについてアンケート

【図 1】 国士舘大学における育成プログラム

本学において、他大学の調査し育成プログラムを図に示す。大学およびクラブ活動の合間で全てのプログラムを実施することは厳しいが、入学時の 4 月、後期が始まる 9 月下旬の年 2 回実施が望ましい。スポーツ中での事故を想定し、迅速に対応・処置できることは、本学が目指すスポーツメディカリストの育成の一助となり得ると考える。

＜座学＞

- ・ファーストレスポnderの重要性
- ・各疾病/外傷に対する基礎知識
- バイタルサイン、心肺蘇生、熱中症、等（120分）

e-learning対応

＜実技＞

- ・状況評価
- ・熱中症
- ・初期評価
- ・SMR
- ・全身観察
- ・搬送法
- ・心肺蘇生
- ・体位管理
- ・創傷処置
- ・緊急度判断
- 2日間に分けて実施（180分）